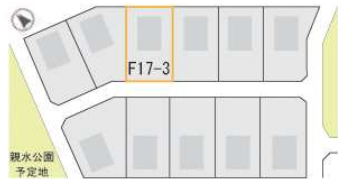


+〇〇と住む暮らし ~賃貸経営ができる家~

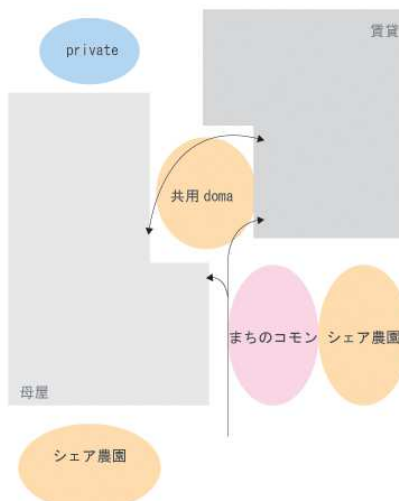
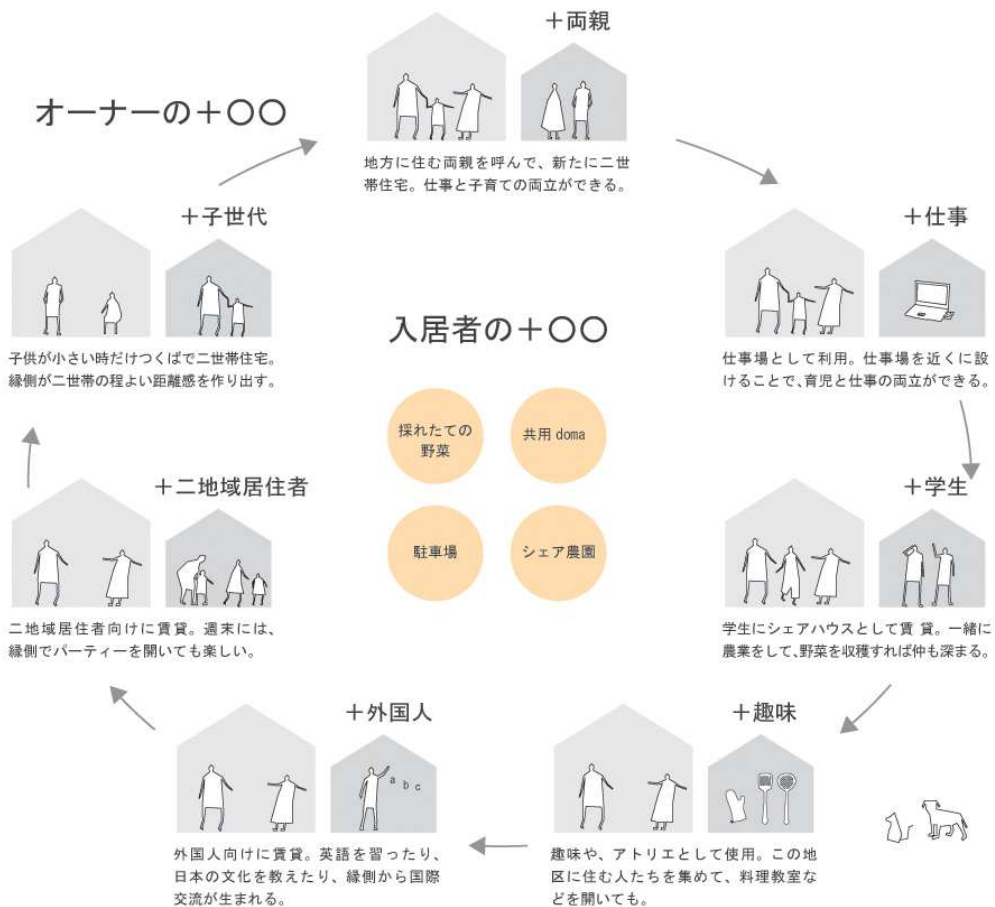
提案者：
千葉大 覚張郁美

広い敷地に二棟の住宅を建てることで、自分たち家族と、+〇〇とともに暮らす住宅を提案する。自然に囲まれたこの敷地は、駅や学校、スーパーにも歩いていくのは少し遠い場所である。そんな少し不便な場所だからこそ、人々の関わり合いが魅力となり、価値となり、この場所を育てていくのではないだろうか。+〇〇とともに暮らすことによって、時には助け合い、時には刺激し合えるような暮らしが展開されていくであろう。



オーナーの想定

都心にも近く自然の多いつくばで賃貸経営を営むオーナーは、子育て世代を想定している。彼らは、賃貸経営を営むことで家賃収入を得るだけでなく、入居者との関わり合いの中で子育てへの不安を解消し、親しくなったら子供を預かってもらうこともできる。



共用 doma

半屋外空間の土間は、完全分離の二棟を緩やかにつなげている。人々の動線を共用空間に近づけることで、自然と人が集まるような空間である。キッチンからもスムーズにつながり、屋外でランチタイムも楽しい。

シェア農園

自ら畑を営むだけでなく、畑付きの賃貸経営が可能となる。野菜や果物を育て、コミュニケーションの場となる。

まちのコモン

グリーンフィールド内の人々が散歩のときに立ち寄れるような空間に。大きな屋根の下で採れたての野菜を販売をしたり、お茶をしたり、人々の会話が弾む。母屋の和室とつながり、人々が集う場所となる。



共用 doma



賃貸用住宅の内観

キーワード：定期借地権

賃貸併用住宅で賃貸経営をすることは、土地代と建物代を回収しなくてはならないため、リスクが伴ってしまう。しかし、定期借地であるこの土地では、建物代のみを回収できれば良いため、賃貸経営を行うのに適しているといえる。